

令和5年度 脇町高等学校 第3回学校運営協議会 協議等概要

(日時) 令和6年3月19日(火) 16時～17時

(参加者) (社会科教室)吉田委員長・竹内委員・武田委員・宮本校長・篠山教頭・多田教頭・

総務課(大島・松田・茅野・井上奈・新見)

(オンライン参加)川原委員・川上委員

1. 委員長挨拶

能登半島での災害支援に美馬市からも派遣。現地では脇町高校卒業生が代表を努めるWOTAのシャワーを活用されている。卒業式等式典でも未来へ羽ばたく脇高生の姿を見た。

2. 学校長挨拶

今年度の入試結果について。国公立入試では、前期の発表時点で103名の合格者。昨年度が過去最高であったのに続き、本年度はすでにその割合に達しており健闘している。様々な観点から助言をいただきたい。

3. 今年度の学校運営について

○今年度の行事について：

コロナ禍以来の東京方面への修学旅行・PTA総会の対面実施

そのほか、脇高祭・校外研修・ミライ文化祭

SSHでは、Swingアカデミー(講演会)、イノベーション教育、屋久島研修(12月に延期実施)、台湾研修、授業研究会、成果報告会の実施

部活動では、県総体女子ソフトテニス団体優勝16連覇個人1～3位独占、男子団体3位、陸上2種目優勝、他四国大会出場種目あり、男子バレー四国大会出場、

○学校評価について：

「家庭学習の充実」「働き方改革」について課題ある一方で、「自己有用感・肯定感たくましい生徒の育成」成果多く見られる。

4. 次年度の学校運営について

スクールミッション・教育目標(案)について：徳島県教育大綱・教育振興計画が刷新されるため、スクールミッション・教育目標も変更される可能性もある。

重点課題：①SSH 第3期最終年/第4期継続申請

②協高の魅力化・特色化の推進(探究を核とした授業展開・進路実現)

③教員の働き方改革の推進 ※②と③をどう両立させるか難しい

進路状況：生徒・保護者の進路希望の多くが国公立大学。それをかなえつつ、働き方改革とのバランスをどう取るか。近年推薦・総合型選抜の枠が増えており、個別指導の時間が増え、負担感が増している。

5. 協議(意見・質疑等)

ア. 部活動の充実・国公立合格者数増加はOBとしても嬉しい。

イ. 家庭学習時間の伸び悩みについて

学習時間は主観的要素もあり、また学習の質を測れないため、小テストの正解率等、より客観的に測れる指標も検討すべきでは。また、家庭学習が授業に生きる工夫をより検討しては。家庭学習に対する保護者や本人の満足度を測る考え方もある。

ウ. ワークライフバランスについて：

エ. 超過勤務は部活動と進路指導が主。推薦等、個別指導によって進路実現が支えられているが、働き方改革との両立が難しい。尽力している教員が報われる報償等は検討できないか。また、デジタルを活用して負担軽減できないか。

ただ、これだけ進路指導の成果が上がっていることはすばらしい。保護者として、生徒が遅くまで個別指導・学習させてもらえる学校環境はありがたい。

オ. SSH テーマについて：地域性を活かした研究課題を生徒がうまく見つけているので、それを包括できるようなテーマが望ましいのではないか。持続可能性は1つのキーワードであり、徳島はその先進地。IOT/AI も続けて活用してほしい。SSH の成果を入試に使える生徒も増えている。多様な生き方を支える指導をお願いしたい。また、SSHの成果発表からは、生徒の成長がうかがえる。SSH事業はぜひ継続を。

カ. 入試結果について：合格率から、指導がうまくいっていると感じる。その要因の分析や、卒業生の追跡調査を行うことで、分かることもあるのではないか。

キ. 探究学習について：卒業生が、高校時代の地域の課題についての探究学習の経験を基に、自治体の職員等に採用され、活躍している。今後も行政と高校との連携を深めることが望ましい。

6. 学校長お礼

いただいた意見を参考にしながら改善していく。次年度も引き続きご指導をお願いしたい。